

# 《 審 判 規 定 》

## フルコンタクト空手の部

①この大会の主旨は技の向上を目的としているので勝敗の判定は技を重視する

②直接打撃制とする（フルコンタクトルール）

③主な反則技

- ・つかみ、ひっかけ、投げ ・首から上への手による攻撃 ・顔面への膝蹴り ・金的への攻撃
- ・下段蹴りのみの攻撃（連続技の中の下段げりは認める）・倒れた相手への攻撃 ・背後からの攻撃
- ・手による押し

④試合時間は全て1分30秒とする 延長1分、再延長1分（マスト方式）

⑤判定基準（一本勝負）

- ・有効 ダメージの有無にかかわらず、的確に上段蹴りが決まった場合。  
連続攻撃により、防戦一方になった場合。
- ・技有り 技が決まり、バランスを崩す程のダメージがあった場合。  
有効を三つ取った場合。
- ・一本 技が決まり相手をダウンさせた場合。  
戦意喪失と主審が判断した場合。  
技有りを二つ取った場合。
- ・審判員は、主審1人（持ち点2）、副審2人（持ち点1×2）からなる3審制
- ・判定での勝敗は、審判員の合計点数で2点以上を取り、尚且つ相手に1点以上の差をつけた方が勝者となる
- ・反則注意2回で減点1とし（技有りと同点）注意3で減点2（一本と同点）となり、反則負けとなる。

⑤厳守事項

- ・ヘッドギア、スネパット、拳サポーターは必ず着用する事（金属、又はプラスチック製のフェイスガード付ヘッドギアの使用は禁止）
- ・ファールカップ着用の事（着用せず出場し、ダメージを受け試合続行不可能な場合は棄権となり相手選手の勝ちとなる場合がある）
- ・中学女子は、チェストガードのソフトタイプ及びアンダーガードの着用義務とする
- ・中学生の部は男女共に、パンチンググローブを使用する事（拳サポーター、オープンフィンガーグローブ等は使用禁止）

⑥マウスピースの使用は可（全体的に技が向上している為できるだけ着用をすすめる）

⑦本大会出場にあたり万一試合中負傷した場合、各自団体のスポーツ保険等で対処して下さい。

## 型の部

①エントリー対象 小学4・5・6年の部 中学生の部 2クラス男女同一

②試合進行 成績上位選手選抜予選本選方式

③演目 予選・決勝共に型の選択は自由（ただし予選と同じ型はNG）

④勝敗の審査 審判三名による点数方式（一人10点で30点満点）

流派により若干の相違点がみられるため、型の三要素（力の強弱、身体の伸縮、技の緩急）を踏まえた上で、総合的に判定する。